

はじめに

序 章 源流へ

1

第1章 自然のおしえ

11

大自然に抱かれ育つ 13 / 生々流転のドラマ 18 / 厳格な父の精神継ぐ 23

第2章 いのちの哲学

35

異文化に大きな刺激 37 / 自分の小ささを痛感 47 / 心打たれた「陰徳の精神」 57 / 不安感が心の重りに 62 / 理性で果たした使命 66 / 特攻に鎮魂の思い 72 / 生の本質と向き合う 75

第3章 誇りについて

81

苦悩の末に帰郷決意 83 / 奥多野振興に燃える 86 / 腐敗脱却訴え村長に 89
財政再建に荒療治 93 / 誇り持つて村おこし 96 / 改革へ時代も後押し 100
若者定住へ知恵絞る 103 / 旧来の価値観に挑戦 106
村の資源で木工振興 109 / 新産業へ技術者養成 112

第4章 支え合うこころ

道徳の基本に触れる 117 / 日航機事故の教訓 123 / 培われた支え合う心 130
八十七歳の青二才 132 / 積極的に生きる場を 135 / 80年来の夢 実現へ 138
本来の生き方を希求 141

115

第5章 豊かに生きる

自治の根本を問う 147 / 分権で依存から脱却を 154
上野村一家で村おこし 156 / 心の文明を開く 163

145

第6章 内山 節さんに聞く 黒澤丈夫の人と思想

173

黒澤丈夫年譜

黒澤村長時代の上野村の主な事業

196 194

心地よい余韻——あとがきにかえて

198